

人権啓発ビデオ&DVD

# 夕映へのみち



## 企画のねらい

### インターネット社会\*の光と影を考える ～人権文化あふれる社会をめざして～

インターネットは、人と人、人と情報をつないで豊かな社会を創る“文明の利器”です。その反面、使い方を一歩間違えると、人と人の絆を断つ凶器に変わってしまいます。インターネットの向こうには生身の人間がいます。

もし、わが子がインターネットを使って他の人の人権を侵したら、逆にわが子がその被害者になり「いじめ」にあったら、あるいは学校や地域で同じ事件が起きたなら……。 「あなたなら、どうしますか？」と、私たちに問いかける作品です。

また、この問題はインターネットを利用しない人々にとっても、無縁ではありません。地域や家庭内での「無責任なうわさ話」や「根強い偏見」が元になり、インターネットによる人権侵害へとつながっていくことがあるからです。

インターネット社会\*で、私たちは「どう生きるか」「人とどう関わるか」「社会とどうつながるか」を考え、「相手を思いやる」ことの大切さを見つめ直していただくために、このドラマを制作しました。



販売価格  
(消費税込み)

■字幕副音声版ビデオ・DVD  
84,000円 上映時間38分

※ビデオ…通常版あり

※DVD…字幕副音声付

企 画／兵庫県・(財)兵庫県人権啓発協会  
企画協力／兵庫県教育委員会  
制 作／東映株式会社





**大**石理恵は、パソコンを習い始めたばかりの専業主婦。夫・浩也、高校一年生のあかり、小学五年生の航平の4人暮らし。

理恵が通うパソコン教室の講師・吉岡久志は、NPO法人の代表でもあり、高齢者・障害のある人のパソコン学習支援や、インターネットを利用したまちづくりにも積極的に取り組んでいる。

**あ**かりは、コンクールに出品する絵を描き始めた。同じ美術部で親友の柴田紗希は、父親の病気やリストラの問題を抱えていて、なかなか絵を描く気になれない。下校する途中、あかりと紗希は夕焼けの美しさに感動。紗希は、やっと絵を描く気になり、あかりもそれを喜ぶ。



**と**ころが、一か月後、紗希の絵がコンクールで最優秀賞に選ばれたことで、二人の関係は微妙に変化する。紗希は友人たちに賞賛され、うれしく言葉も弾む。あかりはそんな紗希の態度が内心面白くない。これまでは賞をとるのはいつもあかりだった。

**あ**る朝、登校前にパソコンを見るあかりの表情が凍った。異変に気づいた理恵は、パソコンの履歴を調べる。そこには、ちょっとした妬み心からあかりが書き込んだ『Sさん、調子に乗りすぎ。カン違いするな』の後に、紗希の家庭の事情を中傷する書き込みが続いていた。事の重大さに動揺する理恵と浩也。



**謝**りに行くか、黙り通すか、葛藤するあかり、理恵、浩也。そして、紗希の家に謝りに行くことを決めたあかり。紗希の母・涼子は許してくれたが、紗希はあかりの裏切りに対して深く傷つき、涙を見せる。あかりは泣くばかりで、きちんと謝れない。

**自**分にも責任があると感じた理恵は学校とPTAに相談する。吉岡を講師に迎えて、学校・地域ぐるみで「インターネット社会と人権」についての特別学習会が開かれた。

吉岡の話聞いた紗希は突然、参加者たちの前に立ち、家族への思いや傷ついた胸のうちを語りだす。

最後に、あかりと紗希は…



## 学習のねらい

- 私たちが日常何気なく発したり、耳にする陰口・うわさ話が、知らず知らずのうちに人権を侵害していることに気づき、自分自身の言動を振り返ってみましょう。
- インターネット社会\*では、その危険性を認識し、より高いモラルや情報を取捨選択する能力が必要であることに気づき、インターネットの正しい利用のあり方について考えてみましょう。
- 豊かな社会を形成するためには、人と人との絆、家庭の果たす役割、家庭と地域社会との関わりが大切であることを認識し、私たちの生き方の問題として考えてみましょう。

**\*インターネット社会** インターネットを通じて創られる社会・コミュニティのことを指します。

### ■主なキャスト

大石 理恵…大場久美子      吉岡 久志…榎木 孝明  
大石あかり…藤岡 涼音      大石 航平…日下 翔平  
大石 浩也…及川 達郎      柴田 紗希…灰山 里奈

### ■スタッフ

プロデューサー／鎌田 幸人・進藤 盛延  
脚 本／山上 梨香  
監 督／佐藤 晴夫